

【授業科目】急性看護学実習Ⅲ Advanced Practicum of Critical Care NursingⅢ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
吉田和枝、渡邊誠	2年次前期	選択	4	180	実習	巻末掲載
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	クリティカルな状態で、かつ複雑で解決困難な課題を抱えている対象とその家族に対して、看護を展開するのに必要なクリティカルケア看護専門看護師の臨床判断と支援技法を修得する。 授業は、実務家教員(吉田、渡邊)が進める。 課題に対するフィードバック/日々の実習内容については、口頭での指導および提出された記録物についてコメントをつけて返却する。					
授業の位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシー②、③、④の達成に寄与している。					
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	①クリティカルケアを必要とする患者に対する直接的な看護実践において、専門的知識、研究や理論の臨床応用を含むクリティカルシンキング、臨床判断能力を高める。 ②科学的根拠に基づいたケアを他の専門職者と協働して実践できる能力を育成する。 ③患者の尊厳を守り、看護師の倫理的問題に対応する能力を高める。					
時間外学習に必要な内容・時間	*詳細は、実習要項参照のこと。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。					
授業計画	<p>実習時期、実習場所につきましては、決まり次第連絡します。</p> <p>1. 実習目標</p> <p>1) クリティカルケアを必要とする患者に対する直接的な看護実践において、専門的知識、研究や理論の臨床応用を含むクリティカルシンキング、臨床判断能力を高める。</p> <p>(1) 患者の病態・治療の理解および侵襲に対する生体反応の把握</p> <p>(2) 患者の安全・安楽の確保と回復を促進するための援助</p> <p>(3) 家族に対する援助</p> <p>(4) 優先順位を考慮した援助</p> <p>(5) 手術室、ICU、病棟間の継続看護</p> <p>2) 科学的根拠に基づいたケアを他の専門職者と協働して実践する能力を育成する。</p> <p>(1) 理論や専門的知識に基づきケアを提案</p> <p>(2) 関連部署や他の職種へのコンサルテーションの提案、協働</p> <p>(3) 高度実践看護師として他職種との協働における役割の理解</p> <p>3) 患者の尊厳を守り、看護師の倫理的問題に対応する能力を高める。</p> <p>(1) 患者の尊厳を守る対応</p> <p>(2) クリティカルケアの継続における看護師の倫理的問題に気付きと対応</p> <p>2. 実習方法</p> <p>(1) 学生は、到達目標の達成に向けて主体的に取り組む。</p> <p>(2) 学生は、集中治療・看護を必要とする患者を受け持ち、患者の集中治療室入室から退室までの看護過程を展開して看護実践能力を高める。</p> <p>3. 評価方法</p> <p>実習目標の達成度(50%)、カンファレンスの参加度(20%)、実習記録(30%)によって総合的に評価する。60点以上を合格とし単位を認定する。</p>					全て 吉田 渡邊
評価方法 評価基準	実習目標の達成状況、実習記録、課題レポート、実習指導者からのコメントを含めて総合的に評価する。 *詳細は、実習要項参照のこと。					
教科書	なし		参考書等	適宜指示		